

社会科 1 学年

はじめに

社会科の目標

- ①社会的事象についての関心・意欲・態度（関わろうとする力）
- ②社会的な思考・判断（考える力）
- ③地図や資料活用の技能・表現（表現する力）
- ④社会的事象への知識・理解（理解する力）

年間計画

地理的分野	歴史的分野
1 章 世界のすがた	1 章 歴史のとらえ方
2 章 世界各地の人々の生活と環境	2 章 古代までの日本 1 節 文明のおこりと日本の成り立ち 2 節 古代国家の歩みと東アジア世界
3 章 世界の諸地域	
4 章 世界のさまざまな地域の調査	3 章 中世の日本 1 節 武士の台頭と鎌倉幕府

教科の先生のアドバイス

◎ 授業の受け方

① 準備物

- 教科書（分野の間違いには注意すること！）
- ノート（A4版の大きいサイズ）
- 地図帳・資料集。など
- 筆記用具（色えんぴつ・色ペンなどがあれば良いですね）

② 毎時間の授業に対して守ること

I チャイム着席

- ※前の授業が終わったら授業の準備に取りかかりましょう。
- ※チャイムが鳴ったときには全員が着席できているように心がけましょう。
- ※全員で気持ちよく授業を始めましょう。

II 忘れ物について

- ※忘れ物をしないように、しっかりと準備をしましょう。

III ノートをしっかりとる

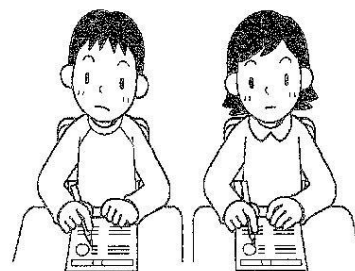
- ※授業では、しっかりノートをとりましょう。
- ※黒板の字・学習プリントの穴あき部分はもちろんしっかりとりますが、担当教員の授業中のコメントも書けるようになると良いですね。

IV 私語はしない

- ※授業の内容に関すること・社会的事象に関することについては、積極的な発言をどんどんしてください。

V 課題

- ※課題「宿題」が出されたら、家で落ち着いて取り組みましょう。
- 締め切りは、守りましょう。



各分野の勉強の仕方

◎ 地理的分野の勉強の仕方

- 日常的にすると良いこと・・・授業中や・TVニュース・クイズ番組・新聞・本などで、知らない地名や国名が出てきたら、すぐに地図帳で探す「くせ」を付けよう。
- 文字として頭に入る知識と、実際の地図帳の場所が一致することが、「地理が分かること」の第1歩です。「百聞は一見にしかず」というように一番良いのは、体験することです。現地に行ってみると鮮明に記憶に残ります。しかし、なかなか難しいと言う人は、インターネットや写真をつかってイメージしてみましょう。TVの旅番組は擬似体験のチャンスです。



◎ 歴史的分野の勉強の仕方

- 歴史を学ぶ上で、まずは興味を持ちましょう。興味を持つ方法は、歴史まんが・大河ドラマなど、歴史関連番組・世界遺産学習など歴史を扱ったものがあります。活用してみましょう。他にも、歴史の流れを知るのには自分なりの歴史年表を作ってみるのも良いでしょう。

◎ 公民的分野の勉強の仕方

- 現代社会の課題や政治・経済。国際関係などを身近な問題としてとらえるためにも、新聞や雑誌、テレビやインターネットなどの情報に耳を傾け、社会的事象について興味を持つようにしましょう。
また、教科書の復習や問題集などを繰り返し行い、公民的分野における基礎的な内容についての理解を深めていこう。

その他のアドバイス

◎ 定期テストの前の勉強の仕方

- 重要語句は、英単語や漢字のように何度も読みながら書きとりましょう。
(教科書の太文字の語句)
- 授業中に行った作業やプリントからの出題にそなえて、ノートに授業の記録を残しているわけですから、テスト前にはしっかり見直して復習しましょう。
- 多くの問題を解くことで、より力がつきます。市販の問題集なども取り組んではどうでしょうか？

評価について

評価の観点	評価の資料・評価対象
① 社会的事象への関心・意欲・態度	授業中の取り組みの様子等による評価の他に、ノートやSTT、レポート、発表、小テスト、プリントなどの提出物の内容や提出状況、忘れ物などの有無など。
② 社会的な思考・判断・表現	授業中の取り組みの様子等による評価の他に、定期テストや小テスト、プリントなどにおける社会的思考・判断・表現に関する問題。
③ 資料活用の技能	授業中の取り組みの様子等による評価の他に、定期テストや小テスト、プリントなどにおける資料活用の技能に関する問題。
④ 社会的事象についての知識・理解	授業中の取り組みの様子等による評価の他に、定期テストや小テスト、プリントなどにおける知識理解に関する問題。

おわりに

みんながしあわせな社会をつくることは、私たちが生きていく上で果たさなければならないことです。社会科を学ぶことで、それに必要な力が養われていきます。そのためには、自分たちの地域の成り立ち、世界の中での日本の立場や現状をしっかりとつかみ（地理的分野）、それぞれの地域や国の文化をつくってきた歴史を知る（歴史的分野）が必要になってきます。そのことによって、お互いが理解を深めていくことが出来ます。その上で今の政治や経済など世の中のしくみを学び（公民的分野）よりしあわせな社会をつくることを目指し、社会を変えていく人として、また、自分の人生を自分の意思で生きていくことの出来る基礎を身につけていくことが社会科の勉強です。

社会科 2 学年

はじめに

社会科の目標

- ①社会的事象についての関心・意欲・態度（関わろうとする力）
- ②社会的な思考・判断（考える力）
- ③地図や資料活用の技能・表現（表現する力）
- ④社会的事象への知識・理解（理解する力）

年間計画

地理的分野	歴史的分野
<p>第2編</p> <p>1章 日本のすがた</p> <p>2章 世界から見た日本のすがた</p> <p>1節 世界から見た日本の自然環境</p> <p>2節 世界から見た日本の人口</p> <p>3節 世界から見た日本の資源・エネルギー</p> <p>4節 世界と日本の結びつき</p> <p>3章 日本の諸地域</p> <p>1～7節 九州地方、中国・四国地方 近畿地方、中部地方、関東地方 東北地方、北海道地方</p> <p>8節 日本をながめて</p> <p>4章 身近な地域の調査</p>	<p>3章 中世の日本</p> <p>2節 東アジア世界とのかかわりと社会の変動</p> <p>4章 近世の日本</p> <p>1節 ヨーロッパ人との出会いと全国統一</p> <p>2節 江戸幕府の成立と鎖国</p> <p>3節 産業の発達と幕府政治の動き</p> <p>5章 開国と近代日本の歩み</p> <p>1節 欧米の進出と日本の開国</p> <p>2節 明治維新</p>

教科の先生のアドバイス

◎ 授業の受け方

① 準備物

- 教科書（分野の間違いいには注意すること！）
- ノート（A4版の大きいサイズ）
- 地図帳・資料集。など
- 筆記用具（色えんぴつ・色ペンなどがあれば良いですね）

② 毎時間の授業に対して守ること

I チャイム着席

- ※前の授業が終わったら授業の準備に取りかかりましょう。
- ※チャイムが鳴ったときには全員が着席できているように心がけましょう。
- ※全員で気持ちよく授業を始めましょう。

II 忘れ物について

- ※忘れ物をしないように、しっかりと準備をしましょう。

III ノートをしっかりとる

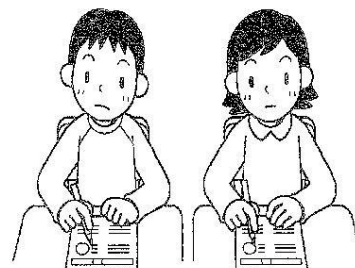
- ※授業では、しっかりノートをとりましょう。
- ※黒板の字・学習プリントの穴あき部分はもちろんしっかりとりますが、担当教員の授業中のコメントも書けるようになると良いですね。

IV 私語はしない

- ※授業の内容に関すること・社会的事象に関することについては、積極的な発言をどんどんしてください。

V 課題

- ※課題「宿題」が出されたら、家で落ち着いて取り組みましょう。締め切りは、守りましょう。



各分野の勉強の仕方

◎ 地理的分野の勉強の仕方

- 日常的にすると良いこと・・・授業中や・TVニュース・クイズ番組・新聞・本などで、知らない地名や国名が出てきたら、すぐに地図帳で探す「くせ」を付けよう。
- 文字として頭に入る知識と、実際の地図帳の場所が一致することが、「地理が分かること」の第1歩です。「百聞は一見にしかず」というように一番良いのは、体験することです。現地に行ってみると鮮明に記憶に残ります。しかし、なかなか難しいと言う人は、インターネットや写真をつかってイメージしてみましょう。TVの旅番組は擬似体験のチャンスです。



◎ 歴史的分野の勉強の仕方

- 歴史を学ぶ上で、まずは興味を持ちましょう。興味を持つ方法は、歴史まんが・大河ドラマなど歴史関連番組・世界遺産学習など歴史を扱ったものがあります。活用してみましょう。他にも、歴史の流れを知るのには自分なりの歴史年表を作ってみるのも良いでしょう。

◎ 公民的分野の勉強の仕方

- 現代社会の課題や政治・経済。国際関係などを身近な問題としてとらえるためにも、新聞や雑誌テレビやインターネットなどの情報に耳を傾け、社会的事象について興味を持つようにしましょう。また、教科書の復習や問題集などを繰り返し行い、公民的分野における基礎的な内容についての理解を深めていこう。

その他のアドバイス

◎ 定期テストの前の勉強の仕方

- 重要語句は、英単語や漢字のように何度も読みながら書きとりましょう。(教科書の太文字の語句)
- 授業中に行った作業やプリントからの出題にそなえて、ノートに授業の記録を残しているわけですから、テスト前にはしっかり見直して復習しましょう。
- 多くの問題を解くことで、より力がつきます。市販の問題集なども取り組んではどうでしょうか？

評価について

評価の観点	評価の資料・評価対象
① 社会的事象への関心・意欲・態度	授業中の取り組みの様子等による評価の他に、ノートやS T T、レポート、発表、小テスト、プリントなどの提出物の内容や提出状況、忘れ物などの有無など。
② 社会的な思考・判断・表現	授業中の取り組みの様子等による評価の他に、定期テストや小テスト、プリントなどにおける社会的思考・判断・表現に関する問題。
③ 資料活用の技能	授業中の取り組みの様子等による評価の他に、定期テストや小テスト、プリントなどにおける資料活用の技能に関する問題。
④ 社会的事象についての知識・理解	授業中の取り組みの様子等による評価の他に、定期テストや小テスト、プリントなどにおける知識理解に関する問題。

おわりに

みんながしあわせな社会をつくることは、私たちが生きていく上で果たさなければならないことです。社会科を学ぶことで、それに必要な力が養われていきます。そのためには、自分たちの地域の成り立ち、世界の中での日本の立場や現状をしっかりとつかみ（地理的分野）、それぞれの地域や国の文化をつくってきた歴史を知る（歴史的分野）が必要になってきます。そのことによって、お互いが理解を深めていくことが出来ます。その上で今の政治や経済など世の中のしくみを学び（公民的分野）よりしあわせな社会をつくることを目指し、社会を変えていく人として、また、自分の人生を自分の意思で生きていくことの出来る基礎を身につけていくことが社会科の勉強です。

社会科 3 学年

はじめに

社会科の目標

- ①社会的事象についての関心・意欲・態度（関わろうとする力）
- ②社会的な思考・判断（考える力）
- ③地図や資料活用の技能・表現（表現する力）
- ④社会的事象への知識・理解（理解する力）

年間計画

地理的分野	歴史的分野	公民的分野
第3章 日本の諸地域 5 節 関東地方 6 節 東北地方 7 節 北海道地方 8 節 日本をながめて	第5章 開国と近代日本の歩み 1 節 欧米の進出と日本の開国 2 節 明治維新 3 節 日清・日露戦争と近代産業 第6章 二度の世界大戦と日本 1 節 第一次世界大戦と日本 2 節 世界恐慌と日本の中国侵略 3 節 第二次世界大戦と日本 第7章 現代の日本と世界 1 節 戦後日本の発展と国際社会 2 節 新たな時代の日本と世界	第1章 わたしたちの生活と現代社会 第2章 人間の尊重と日本国憲法 1 節 ～ 3 節 第3章 現代の民主政治と社会 1 節 ～ 3 節 第4章 わたしたちの暮らしと経済 1 節 ～ 4 節 第5章 地球社会とわたしたち 終章 よりよい社会をめざして

教科の先生のアドバイス

◎ 授業の受け方

① 準備物

- 教科書（分野の間違いいには注意すること！）
- ノート（A4版の大きいサイズ）
- 地図帳・資料集。など
- 筆記用具（色えんぴつ・色ペンなどがあれば良いですね）

② 毎時間の授業に対して守ること

I チャイム着席

- ※前の授業が終わったら授業の準備に取りかかりましょう。
- ※チャイムが鳴ったときには全員が着席できているように心がけましょう。
- ※全員で気持ちよく授業を始めましょう。

II 忘れ物について

- ※忘れ物をしないように、しっかりと準備をしましょう。

III ノートをしっかりとる

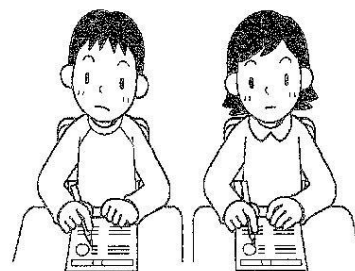
- ※授業では、しっかりノートをとりましょう。
- ※黒板の字・学習プリントの穴あき部分はもちろんしっかりとりますが、担当教員の授業中のコメントも書けるようになると良いですね。

IV 私語はしない

- ※授業の内容に関すること・社会的事象に関することについては、積極的な発言をどんどんしてください。

V 課題

- ※課題「宿題」が出されたら、家で落ち着いて取り組みましょう。締め切りは、守りましょう。



各分野の勉強の仕方

◎ 地理的分野の勉強の仕方

- 日常的にすると良いこと・・・授業中や・TVニュース・クイズ番組・新聞・本などで、知らない地名や国名が出てきたら、すぐに地図帳で探す「くせ」を付けよう。
- 文字として頭に入る知識と、実際の地図帳の場所が一致することが、「地理が分かること」の第1歩です。「百聞は一見にしかず」というように一番良いのは、体験することです。現地に行ってみると鮮明に記憶に残ります。しかし、なかなか難しいと言う人は、インターネットや写真をつかってイメージしてみましょう。TVの旅番組は擬似体験のチャンスです。



◎ 歴史的分野の勉強の仕方

- 歴史を学ぶ上で、まずは興味を持ちましょう。興味を持つ方法は、歴史まんが・大河ドラマなど歴史関連番組・世界遺産学習など歴史を扱ったものがあります。活用してみましょう。他にも、歴史の流れを知るのには自分なりの歴史年表を作ってみるのも良いでしょう。

◎ 公民的分野の勉強の仕方

- 現代社会の課題や政治・経済。国際関係などを身近な問題としてとらえるためにも、新聞や雑誌テレビやインターネットなどの情報に耳を傾け、社会的事象について興味を持つようにしましょう。また、教科書の復習や問題集などを繰り返し行い、公民的分野における基礎的な内容についての理解を深めていこう。

その他のアドバイス

◎ 定期テストの前の勉強の仕方

- 重要語句は、英単語や漢字のように何度も読みながら書きとりましょう。
(教科書の太文字の語句)
- 授業中に行った作業やプリントからの出題にそなえて、ノートに授業の記録を残しているわけですから、テスト前にはしっかり見直して復習しましょう。
- 多くの問題を解くことで、より力がつきます。市販の問題集なども取り組んではどうでしょうか？

評価について

評価の観点	評価の資料・評価対象
⑤ 社会的事象への関心・意欲・態度	授業中の取り組みの様子等による評価の他に、ノートやS T T、レポート、発表、プリント、小テストなどの提出物の内容や提出状況、忘れ物などの有無など。
⑥ 社会的な思考・判断・表現	授業中の取り組みの様子等による評価の他に、定期テストや小テスト、プリントなどにおける社会的思考・判断・表現に関する問題。
⑦ 資料活用の技能	授業中の取り組みの様子等による評価の他に、定期テストや小テスト、プリントなどにおける資料活用の技能に関する問題。
⑧ 社会的事象についての知識・理解	授業中の取り組みの様子等による評価の他に、定期テストや小テスト、プリントなどにおける知識理解に関する問題。

おわりに

みんながしあわせな社会をつくることは、私たちが生きていく上で果たさなければならないことです。社会科を学ぶことで、それに必要な力が養われていきます。そのためには、自分たちの地域の成り立ち、世界の中での日本の立場や現状をしっかりとつかみ（地理的分野）、それぞれの地域や国の文化をつくってきた歴史を知る（歴史的分野）が必要になってきます。そのことによって、お互いが理解を深めていくことが出来ます。その上で今の政治や経済など世の中のしくみを学び（公民的分野）よりしあわせな社会をつくることを目指し、社会を変えていく人として、また、自分の人生を自分の意思で生きていくことの出来る基礎を身につけていくことが社会科の勉強です。